

平成30年度第4回 草津市自殺対策推進会議		
日時	平成31年2月21日(木) 午後2時00分～4時00分	
会場	アマカホール2階 研修室	
出席者	委員	まちづくり協議会連合会、草津市社会福祉協議会、草津市民生委員児童委員協議会、滋賀県司法書士会、滋賀いのちの電話、草津栗東医師会、草津警察署、草津総合病院、市民公募委員3名、滋賀県南部健康福祉事務所(草津保健所)〔計12名、順不同〕
	事務局	健康福祉部長・西典子、健康増進課長・山田高裕、同課係長・清水葉子、同課専門員・井上昌子、同課主査・岩崎容子、野洲麻理子、同課係員・五太子亜紀 生活安心課長・富田洋幸、生活支援課長・井上康則、長寿いきがい課長・松永祐子、子育て相談センター所長・田中みどり、学校教育課参事・京近武史
欠席者	委員	草津商工会議所、ハローワーク草津、滋賀県自死遺族の会
	事務局	健康福祉部副部長・小川薫子
会議資料	別添のとおり	

## 次第1 開会

本日は12名の委員の出席があり、草津市附属機関運営規則に基づき、本会議が成立することを報告。また、個人の権利利益の保護に鑑み、非公開とすること、発言した内容は、発言者氏名や個人情報を除き、後日、市のホームページで議事概要として掲出することについて各委員に了承を得る。

次第2 報告 「第2次草津市自殺対策行動計画(案)」パブリックコメント実施結果について、資料1-1、参考資料に基づき、事務局より報告

(委員長) 何か御質問、御意見はございませんか。

(委員) 36ページについて、「いじめ」も盛り込んでほしい。今回についてはパブリックコメントも済んでいるため加えられないと思うが、次期計画には加えてほしい。

(事務局) 「いじめ」の文言は入っていないが、子ども若者への自殺対策として必要な要素であるため、いじめ対策を踏まえた取組を進めていく。

次第3 議事 ①ゲートキーパー養成研修について、資料2-1、2-2に基づき、事務局より説明

(委員長) 何か御質問、御意見はございませんか。

(委員) ゲートキーパー研修会は、過量服薬のこともあるため、薬剤師会の参加も進めたらいいと思う。他市では、自殺対策の会議に薬剤師会が入っているところもある。

(委員) 事例検討を含めたステップアップ編を計画しているということは、とても喜ばしいが、受講者の対象を狭めすぎないでほしい。相談員でなくても、一般事務とし

て対応している人たちの中でも、具体的な対応で困っている人もいる。  
(委員)相談員の養成もしているため、積極的にゲートキーパー研修への参加を促していきたい。  
(委員)精神疾患など、困りごとを持つ本人だけでなく、その人を支える家族、特に親の苦悩は大きい。心中を考える家族も多いが、それを隠して本人を支えようと、受診などしている。診療所などで、医師や看護師さんから「頑張りすぎてない？」など一言をかけてもらえると、とても救われると思う。  
(委員長)その通り。子どもたちの支援としては、学校現場の先生方が懸命に対応してくれていると思うが、その先生方への研修などはどうなっているのか。  
(学校教育課)ゲートキーパー研修、というものではないが、教育相談などいろいろな形で子どもたちや保護者と関わる機会があり、その支援技術を向上させるための研修は行われている。  
(委員)文部科学省からは、子どもの自殺予防のための手引書が作成されている。各市町で活用しながら進めていって欲しい。

①第2次草津市自殺対策行動計画の推進について、資料3-1、3-2、当日回収資料(3-3)に基づき、事務局より説明

(委員長)何か御質問、御意見はございませんか。  
(委員)40代の死亡が6名ということに驚いた。どんな状況だったのか詳しくわかるか。  
(事務局)死亡小票に書かれていることだけであり、詳しくはわからない。  
(委員)「地域における自殺の基礎資料」で、もう少し詳細が分かるため、分析に活用してはどうか。  
(委員長)これまでの会議でも資料として提示されている。今後も分析の継続をしてほしい。  
(委員)地域の中で、困っている人がいても、どう接触していくか、どう気づくかが課題。  
(委員)家族の苦悩については同感。周囲が何とか気づき、支援につなげたい。  
(委員)高齢者においても、介護者への支援が課題。色々な施策はあるが、すべて自分でやらなければと抱え込んでしまう人も多く、施策につながらない。  
(委員)地域の自治会などでは、地域の中で困っている状況の人についての正確な情報が伝わってこない。噂などでは知っているが、実際の状況は誰もわからない。個人情報なので、誰にでも、というわけではないが、必要などころで、限定されたところでは情報共有しないといけない。災害時など、大きな課題となっており、今後地域で取り組んでいく予定。  
(委員長)身体的な病気を抱えた人への支援については、いかがか。  
(委員)病院には、病気の人だけでなく、家族からの相談もある。病気や入院をきっかけに、家族などが相談できる場合があり、関係機関につなぐこともある。未遂者などが運ばれてきた場合には、情報不足を感じることもあり。自殺を繰り返す場合には、複数の病院に搬送履歴がある場合があり、病院同士の情報連携も必要だと思う。  
(委員)マンションでは、近隣の人々の状況は全く分からない。しかし、関わりを持ちたくなくてマンション暮らしを選ぶ人も多く、強いつながりをもっていくというのは困難。  
(委員)研修会チラシにもあるが、岡壇氏は、きわめて自殺率の低い土地を取材し、どんな地域性があるのか研究した。色々な要素があり、近すぎず、遠すぎない人間関係、病は市(いち)に出せ、愚痴をこぼせる、などがある。色々な方法が市民さんに届くようにしていかないといけない。  
(委員)40歳代は、社会的責任を感じる年代。また、相談などは自分からしにくい年代。状況によっては、成年後見制度など使える制度があると思うが、相談に来ても

らうまでが課題。逆にこちらから飛び込んでいくことができれば、と考えている。

(委員長)生活困窮者の相談はどこにしたらよいのか。

(生活支援課)人とくらしのサポートセンターが担当。

(委員)死亡小票とは、どのような人について把握されるのか

(事務局)草津市民についてのみ。市外で死亡した場合も含む。

(委員)1人の自死や自殺未遂が、多くの人への影響を生む。そのことも踏まえて、支援の構築や対策を検討していく必要がある。

(委員)警察による家庭の巡回が、以前あったように記憶しているが、現在はあるのか。とてもよいものだと思う。

(委員)現在も実施している。

(委員)自分の地域にも来てくれている。気になる家など伝えている。しかし、在宅している家庭しか会えないこともあり、全世帯には行き届いていないと思う。

(委員)凧の会サテライト開催あり、参加した。遺族会に来て話すことが助けになる人、家で一人で過ごす方がいい人など様々あると思う。引き続き、行政からの広報等続けてほしい。SNSについて、今後検討していくこととなっているが、若者への支援として必要なことであるため、前向きに取り組んでほしい。また、未遂者支援については、とてもいいことだと思うので、医療機関などでも紹介し、相談支援につなげてほしい。

(委員長)医師会でも自殺予防の取組を進めている。現在は、新たに周産期医療と精神科の連携を始めているところ。

(事務局)来年度より、様々な団体等に出前講座の利用を積極的に働きかけ、啓発を進めていきたい。委員の皆様で、出前講座を活用いただけるよう働きかけていただけないか。

(委員)いい取組だと思う。協力できる。

### 次第3 その他 今後の予定について 事務局より説明

#### 次第4 閉会(西部長あいさつ)

委員の皆様方におかれましては、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。「第2次草津市自殺対策行動計画」は、7月5日に当推進会議に諮問をさせていただき、11月29日に答申を頂きました。今後庁内の手続きを得て、3月に策定を予定しています。この計画は、第1次計画の取り組みをさらに強化・推進するとともに、新たに「子ども・若者の自殺対策」を基本施策の一つに掲げています。これまで計画策定の中でいただきましたご意見を踏まえ、計画の目標であります「かけがえのない命を大切にする社会の実現」を目指して、さらなる取組を進めて参りたいと考えているところでございます。

そのためには、行政はもとより、市民の皆様や地域・学校・医療や介護・企業等、様々な関係機関の皆様との連携・協力が必要でございます。皆様には、今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、委員の皆様におかれましては、5月末日で委員の任期が終了となり、本日が最後の会議となりました。皆様には、御多用にも関わらず、御協力をいただきましたこと、改めて厚く御礼を申し上げますとともに、今後とも、御指導賜りますようお願い申しあげまして閉会の挨拶とさせていただきます。皆様、本当にありがとうございました。

閉会 午後3時40分